

受験番号	
------	--

令和2年度

精道三川台中学校 第1回入学試験

作文問題

注意

- 1 「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙の中にはさんであります。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、受験番号を問題冊子および解答用紙の受験番号らんに記入しなさい。
- 4 「やめ」の合図で、筆記用具を置きなさい。
- 5 試験終了後は、問題冊子および解答用紙を机の上に置いたまま指示があるまで待ちなさい。
- 6 検査時間は**45分**です。

令和二年度精道三川台中学校入試作文問題

(四十五分)

次の文章を読んで、あとの問題一、二に答えなさい。

生きた世界というのは共生の世界です。木や、草や、動物や昆虫、細菌きん、要するに多くの生命がフランスを保って共に生きているからこそ、生命世界が再生しながら、一定の安定状態を維持しているわけです。ところが、木をバサツと切り倒してしまうと、そこで生きられる動植物や虫、細菌の種類が少なくなり、その生命システムは単調になるわけです。それまで成立していた複雑な循環じゆんかんがこわれ、再生できなくなる。だから砂漠化が進む。そして、その結果として、ひとは水を保つ能力がその地域から奪われることになります。降った雨が一気に川や海に流れ込んでしまうので、空気中に水蒸気を送り込むメカニズムも変わるし、世界の異常気象の原因のひとつにもなりかねないのです。

雨が降って流れるだけだったら、空気中への水蒸気の補給は限られることになります。それに対して、森林がある場合、土地が水を蓄え、森林が木の葉っぱから水を蒸散することで空気中の水蒸気を補給しているわけです。それがなくなるわけですから、自然のサイクルが狂うはずです。

雨が降るとか降らないとかいうのも、空気中の水蒸気が全部降るわけじゃありません。条件がそろったときに雨は降ります。水蒸気はあつても降る条件がそろわなければ雨は降りません。いわばとてもデリケートなところで降ったり降らなかったりするわけです。そういうことを考えると、水蒸気の補給がいくらでも衰えるということは各地の気象条件に少なからぬ影響が出るはずです。それは、ひいては砂漠化をさらに加速するということになるでしょう。いまは北アフリカだけでなく、世界のあちこちで乾燥地帯が拡がっているのです。

木を切ったところはなかなか復原しません。直射日光が地面に照りつけるから、大きな高い木の下に育っていた弱い木も育たなくなります。動物たちも生きられない。動物と植物との間にひとつの安定したシステムがあつたのに、それがどんどん崩れていく流れに向かってしまうわけです。いったん木を切り倒してしまったところももう一度同じ状態に戻るには、かなり時間がかかるだろうし、ことによると永久に戻らないということさえありうるのです。いずれにしても、地球規模で、大きな変化が起こるだろう、いやすでに起こっているということにはまちがひありません。

それからもうひとつは、熱帯雨林の減少が、炭酸ガスの増加による温室効果にも影響してくるということです。木々の緑が、炭酸ガスと水を光合成で結びつけて有機物に変えてくれていることで、空気中の炭

酸ガスと酸素の濃度がバランスを保っていたわけです。ところが、一方では石油を燃やして炭酸ガスを増やしながら、同時に緑を削りとれば、踏んだり蹴ったりになるわけです。だいたひ空气中の炭酸ガスの増えていく割合の規模からいうと、化石燃料を燃やすことで増えているのを二とすれば、木材の過剰伐採にもなつて炭酸ガスが増えている割合は一くらいではないでしょうか。決して無視できる量ではありません。

そういうふうを考えていくと、この地球上で生態系を安定させ、その安定した地球生態環境の中で人間も生きなければならぬとしたら、いま私たちがやつていることは、長期的に言つて、自らの生存の基盤そのものを掘り崩している愚かな営みということになります。また、「長期的に」どころではなく、日本をはじめとする国々による森林破壊は、いまこの瞬間にも、人々を苦しめているのです。それは、東南アジアの、また南米アマゾンの森の中で、緑を糧とし、緑を文化の基盤として生活してきた人々です。森の中で伝統的な生活を慎ましやかに生きてきた人たちが、その生きる場を追われているのです。彼らのふるさと、文化も壊してしまふ、これは非常に罪深いことをしていることになります。

(「地球をこわさない生き方の本」槌田劭)

炭酸ガス…二酸化炭素のこと。大氣中に約0.003%存在する無色・無臭の気体。

問題一 生命システムが単調になることで、一つは水を保つ能力が奪われてしまふことになると筆者は述べている。もう一つのことを九十字以上百十字以内で解答用紙に書きなさい。

【注意】

- 一、題名や名前は書かないでください。
- 二、原(よう)用紙の一行目から書き始めてください。
- 三、段落だんらくに分ける必要はありません。

問題二 この文章を読んで、あなたが考えたり感じたりしたことを、**問題一**で書いた内容と関連させながら、**四百五十字以上五百字以内**で**解答用紙**に書きなさい。

【注意】

- 一、題名や名前は書かないでください。
- 二、原(よう)用紙の一行目から書き始めてください。
- 三、必要に応じて、段落に分けて書いてください。